

超スーパーな大先輩たち

先日、次兄が5000mを走るという事で、地元六ヶ所村大石総合運動公園で行われた、青森マスタース陸上競技記録会を観に行きました。何よりもびっくりしたのは、出場者の容姿と年齢のギャップの違いです。W60（女子60歳～65歳の部）に出た方はどう見ても40歳代だし、M75（男子75歳～80歳の部）に出た方は私（55歳）と変わらない感じがします。

圧巻だったのが、最後に行われたM90（男子90歳～95歳の部）1600mリレー。1人400mを4人でリレーします。従来の記録はアメリカチームが出した12分41秒69でしたが、なんと、8分49秒01の世界新記録を樹立しました。約4分もタイムを縮め、走り終わった後も淡々としているその姿に「超スーパー大先輩」の言葉が浮かびました。

翻（ひるがえ）って、実家に住む4月に88歳になったわが父。今でも毎朝自転車で町内を1周しているそうです。時間にして約50分の運動。「町の景観と自然との一体感が気持ちよく、続いている理由だ」と話していました。連休中に息子たちで小宴を催し、米寿祝いに自転車のヘルメットを贈りました。

超スーパー大先輩たちが元気ハツラツで、実年齢より若く見られるのは、自分が楽しんで取り組めるものがあることと、それを長く続けていることなのかなぁと思いました。そして、その頑張りが周りにいる人たちの元気につながるとも感じました。

大会補助員として、寒空の中、一生懸命働いていたわが校の陸上部員。スーパー大先輩の活躍はその目にどう映っていたのかな？